



## 会長あいさつ

会長 森本 康彦 (東京学芸大学)

学校では新年度が始まり、あっという間に2カ月が経ちました。しかし、今は、3年前、2年前、昨年とは違う、生徒や学生達の笑顔がキラキラあふれる、そんな当たり前だった学校の光景が戻ってきました。コロナ禍は、確実に開けようとしています。新しい時代の学校教育の幕開けになるのでは？と感じているのは私だけではないでしょう。

そのような中、情報科教育は、新しい局面に立っています。現行の学習指導要領では、「情報Ⅰ」が共通必修科目として生まれ、全国のすべての高校生に向けて授業が展開されています。また、今年度から「情報Ⅱ」も始まりました。そして、2年後の大学入学共通テストでは「情報Ⅰ」が加わります。さらに、大学においても文系理系を問わず、数理・データサイエンス、AIに関するカリキュラムが実施され始めています。

今後の超スマート社会「Society5.0」では、AIによって多くの仕事が代替される一方で、私たち人間はより高度な創造性、思考力、判断力を発揮し、テクノロジーと協力しながら、唯一無二の人間らしい仕事に挑まなければなりません。莫大な情報の中から真に重要な情報を主体的に選び、テクノロジーを駆使し、協働で問題解決に取り組む資質・能力が、これからの未来を切り拓くすべての人々に求められるのです。

日本の情報教育は、高校における情報科をハブとして、小学校から中学校、そして大学へとシームレスにつながります。小学校でのプログラミング必修化、GIGAスクール構想によるIT環境整備、中学校での高度なプログラミング教育... これらすべてが、一貫性のある学びを形作っています。これらの学びにおいて私たちは、「情報活用能力」を育成していきます。それは単なるICTの活用方法や情報技術の習得にとどまらず、学ぶ力の基盤となる重要な資質・能力です。この資質・能力は、すべての教科等で学びの基礎となり、教科間の隙間をも埋め、協働的に学び、問題解決を行い、社会に参画していく上で欠くことができない国民的な素養そのものと言えるでしょう。

## 本号目次

学会長挨拶	1	報告 実践研究支援事業	5
第16回全国大会案内	3	事務局からの連絡	7

本学会では、高校の情報科の先生方と密な関係を築き、連携を深めることを心がけており、新たに、情報科教育連携強化委員会、情報科教員養成研修委員会、情報科入試委員会の3つの委員会を設け、フォーラムや意見交換など積極的な活動を展開しています。これら活動の一つ一つは小さいかもしれませんが、点と点がつながり線になり、それらが重なり合っていくことで連携が形成されるのだと考えています。

いよいよ7月1日（土）・2日（日）に、第16回目の全国大会が東海大学（品川キャンパス）で開催されます。大会のテーマは「情報科教育の実践と課題」です。一日目は、今回も田崎丈晴調査官をお招きし、ご講演をいただきます。その後、5人の高等学校の先生方によるパネルディスカッション「情報Ⅰの実践から見えてきた課題と対策」と、大学と高等学校の先生方による企画セッション「高等学校から大学への情報教育の橋渡し」が行われます。そして、二日目は、各セッションに分かれての研究発表（口頭発表）です。この二日間を通して、最新の情報科教育実践を目の当たりにし、未来につながる意味ある課題を発見することができるかと期待しております。

情報科教育に関わる先生方は、今、本当に忙しく、そして、大活躍されていることと思います。本学会は、そのような先生方をしっかりと後押しできるよう、さらに大きくジャンプアップしていきたいと考えております。今後とも、本学会の活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第16回全国大会案内

日本情報科教育学会第16回全国大会を以下の日程・内容で開催いたします。当日の参加も可能です。奮ってのご参加をお待ちしております。

### 記

#### ■ 大会テーマ

情報科教育の実践と課題

#### ■ 開催日程 2023年7月1日（土）・2日（日）

#### ■ 開催場所 会場：東海大学品川キャンパス（旧・高輪キャンパス）

〒108-8619 東京都港区高輪2-3-23

1日目：ハイブリット開催（現地会場およびオンライン）

2日目：現地会場のみ 研究発表

#### ■ プログラム

<第1日：2023年7月1日（土）>

ハイブリット開催

12:20～13:00 受付開始

13:00～13:30 総会

13:30～14:00 企業ブリーフィング

14:00～14:10 休憩

14:10～14:20 会場校挨拶

14:20～14:50 基調講演

14:50～15:40 招待講演

15:40～15:50 休憩

15:50～16:50 パネルディスカッション

16:50～17:00 休憩

17:00～18:00 企画セッション

18:00～18:30 フリーディスカッション（現地のみ）

<第2日：2023年7月2日（日）>

現地会場のみ

8:50～ 9:30 受付

9:30～10:45 研究発表 1

10:45～10:55 休憩

10:55～12:10 研究発表 2

12:10～13:30 昼休み

13:30～14:45 研究発表 3

14:45～14:55 休憩

14:55～16:10 研究発表 4

16:10～16:20 クロージング

<第1日：2023年7月1日（土）>

#### ■ 基調講演 森本 康彦（東京学芸大学教授・日本情報科教育学会会長）

#### ■ 招待公演 「情報科における学びの充実」（仮）

田崎 丈晴 調査官（文部科学省初等中等教育局参事官（国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官、文部科学省初等中等教育局就学支援・教材課/教育課程課情報教育振興室教科調査官、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室教科調査官）

## 第16回全国大会案内

### ■ パネルディスカッション 「情報 I の実践から見えてきた課題と対策」

コーディネーター 井手 広康（愛知県立小牧高等学校 教諭）

パネリスト 武善 紀之（千葉県日出学園中学校・高等学校 教諭）

平田 篤史（広島大学附属福山中・高等学校 教諭）

松島 拓路（福岡県立明善高等学校 教諭）

吉田 拓也（東大寺学園中学校・高等学校 教諭）

### ■ 企画セッション 「高等学校から大学への情報教育の橋渡し」

司会 佐藤 万寿美（同志社女子大学 嘱託講師）

登壇者 穴田 浩一（早稲田大学高等学院 教諭）

後藤 貴裕（東京学芸大学附属国際中等教育学校 副校長）

鹿野 利春（京都精華大学 教授）

西野 和典（太成学院大学 教授）

<第2日：2023年7月2日（日）>

### ■ 研究発表 現地会場のみ（発表会場A及び発表会場B）

9:30～10:45 研究発表1 発表会場A 5件，発表会場B 5件

10:55～12:10 研究発表2 発表会場A 5件，発表会場B 5件

13:30～14:45 研究発表3 発表会場A 5件，発表会場B 5件

14:55～16:10 研究発表4 発表会場A 5件

※ 発表は1件15分（発表10分，質疑4分，交代1分）で行われます。

※ 詳細は，<https://jaeis-org.sakura.ne.jp/taikai/t23/> を参照ください。

【報告】2021年度応募実践研究支援事業に関する報告 —中間報告—

プロト・ペルソナ作成支援シートの提案と授業実践

広島大学附属福山中・高等学校 平田 篤史

情報 I 「(2)コミュニケーションと情報デザイン」では「効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善する」<sup>(1)</sup>力を身につけることが求められている。そこで本研究ではデータに基づかない仮のペルソナである「プロト・ペルソナ」作成支援シートとシートを活用した学習活動を提案し、ペルソナ手法の目的であるユーザーの具体化やユーザーが持つ要求についての議論を行うことができたか検証することを目的とする。

提案するシートを右図に示す。シートは6つのセクションで構成しており、それぞれ「イラスト」、「名前」、「プロフィール」、「テーマに関する情報」、「要求」、「優先順位」である。次に2時間の学習活動について、1時間目では生徒が個人でプロト・ペルソナ作成支援シートのセクション1～5を用いて「サンプルペルソナ」を作成する。2時間目では3、4人のグループを作り、セクション6を用いて各サンプルペルソナの優先順位をつける。ここで優先順位は「プライマリーペルソナ」、「セカンダリーペルソナ」、「重要でないペルソナ」の3種類とする。優先順位づけをもとに要求の追加・修正をされた「プライマリーペルソナ」を、グループを代表する「プロト・ペルソナ」とする。

プロト・ペルソナ作成支援シート

テーマとなる製品、サービス： \_\_\_\_\_

<b>1. イラスト</b>     <b>2. 名前</b>  <b>4. テーマに関する情報</b> 端末の利用状況  得意課題、不安、願望  同様の製品、サービスの利用経験  同様の製品、サービスに満足している点  同様の製品、サービスに不満な点	<b>3. プロフィール</b> 年齢/性別 所属 居住地 片道の通勤、通学時間 性格 趣味  <b>5. 要求</b> サンプルペルソナの要求 ① ② ③  追加・修正後の要求(プライマリーペルソナのみ使用)     <b>6. 優先順位</b> <input type="checkbox"/> プライマリーペルソナ(第一優先) <input type="checkbox"/> セカンダリーペルソナ(第二優先) <input type="checkbox"/> 重要でないペルソナ
--	---

年 級 番 名 前: \_\_\_\_\_

提案するシートと学習活動をH高校2年生201名（5クラス）を対象に実践した。実践の事後アンケートでは165件の有効回答を得た。今後は得られた回答を分析、考察していく。

(1) 文部科学省. 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説情報編(2018)

【報告】2021年度応募実践研究支援事業について—中間報告—

東大寺学園中学校・高等学校 技術科・情報科教諭 吉田拓也

この度、2021年度応募実践研究支援事業として、格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

研究タイトルは、「中高接続を重視した知的財産に関する授業実践」として、現在進行中であり、先日ようやく試行授業を行ったところです。

本研究は、中学校および高等学校学習指導要領や学習指導要領解説の高等学校情報編、中学校技術・家庭編において、系統性の重視や縦の連携が求められていることから、「情報I」と「中学校技術・家庭科技術分野(以下、技術科)」D情報の技術分野について、共通した学習内容である知的財産を取り上げて、その学習範囲や順序等を考察した上で、中高接続を重視した授業および教材の実施可能性を提案しようとするものです。学習内容については、教科書における知的財産分野の現状として、第15回全国大会(2022年7月3日)で調査内容を発表させていただきました。7社16種の教科書について、産業財産権を7項目、著作権を13項目設けて、記載の有無を調査して一覧表で示したり、テキストマイニングの手法を用いて頻出語の階層的クラスター分析などを行いました。これらによって得た知見を基に、表1のような学習内容を設定して、新たにワークシートの開発も行いました。

表1 技術科における学習内容の設定

- |  |
|--|
| (1) どのようなものが知的財産となるのか、身近な例を通して認識する<br>(知財に関する知識・理解)                      |
| (2) 知的財産について、「産業の発達と産業財産権」、「文化の発展と著作権」の関係を知り、権利の目的を理解する<br>(知財に関する知識・理解) |
| (3) 知的財産を取り扱う時、その行為がどのような影響を及ぼすかを考える<br>(知財を尊重する態度)                      |



写真1 試行授業の様子

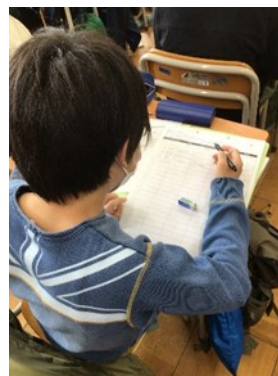


写真2 ワークシートを記入する生徒

奈良県内T中学校の1年生(5クラス204名)を対象に、写真1および写真2が示すように、試行授業(50分2コマ)を実施することができました。今後は、対象生徒に対して質問紙調査を行い、その教育効果や中高接続を重視した知的財産に関する学習内容の検討について、改めてご報告をさせていただく予定です。

## 事務局からの連絡

### 事務局からの連絡

#### ◎会員専用ページについて

2022年1月よりホームページ上に会員専用ページ（以下マイページ）を開設しております。

<http://jaeis.org/nyukai/>からログインしてください。

- ・学会に登録されている会員情報の変更が可能です。住所・所属等の変更がある場合は、このマイページからご自身で変更してください。
- ・会員名簿の検索・閲覧が可能です。なお、閲覧できるのは、氏名の他、公開を許可した項目です。ご自身の公開可否情報は「登録情報の変更・確認」から変更が可能です。
- ・2022年度以降の年会費について、請求書のダウンロード、クレジット決済、領収書のダウンロードが可能です。2022年度以降の年会費振込先は、マイページでご確認ください。

なお、2021年度までの年会費納付状況、年会費振込先については、ご面倒でも、直接、事務局(jaies-jimu@jaies.org)までメールでお問い合わせください。年会費が未納の場合、学会誌に投稿できない、学会誌が送られない、また、全国大会や研究会（研究委員会主催）での発表ができません。未納の方は、速やかに年会費の納入をお願いします。

日本情報科教育学会ニューズレター No. 35 2023年6月28日

発行所 日本情報科教育学会事務局

<http://jaeis.org/>

E-mail [jaeis-jimu@jaeis.org](mailto:jaeis-jimu@jaeis.org)

#### 発行責任者 広報委員会

委員長：布施泉（北海道大学） 副委員長：池田 勇（植木保育園）

委員：高橋 等（静岡産業大学） 土田賢省（東洋大学） 室谷心（松本大学）

長谷川理（武蔵野大学） 坂田圭司（東海大学）

齋藤実（埼玉県立芸術総合高等学校）